

地域の空間資産と歴史文化資源を活かしたまちづくりに関する研究

研究の概要

都市や集落の歴史的な文脈と現代の社会環境を捉えながら、公共・民間の空間資産、生活文化、産業・生業、それらが織りなす景観など、多様な地域資源の保全・活用によるまちづくりの実践手法を考究しています。具体的には、①土地の記憶・地域形成にまつわるストーリーの掘り起こしと共有化、②地域資源の保全を図りながら、日常生活および観光・交流に活用するための手法、③生活者・市民が主体となった地域の実践的活動を持続的なまちづくりに結びつけるための組織体制・制度・マネジメントのあり方について、調査研究を行なっています。

これまでに、和歌山市駅周辺をはじめとする和歌山市中心市街地、歴史的漁村集落の形態と文化を受け継ぐ和歌山市雑賀崎地区、津波防災にまつわる歴史的環境を有する和歌山県広川町、世界遺産に登録された合掌造り集落を擁する富山県南砺市五箇山地域、歴史的市街地や水郷、城跡など多彩な歴史文化が積層する滋賀県近江八幡市などをフィールドに、地域の関係主体との連携による研究および実践的活動に取り組んでいます。

研究の特徴

当研究室では、都市の市街地から集落までを視野に入れて活動していますが、常に念頭に置いているのは、地域の人々の「生活の場」としての愛着と誇りを取り戻すための仕掛けづくりです。そのために、現地でのフィールドワークや、地域の関係者とのコミュニケーション・協働作業を通じた実践型研究に取り組んでいます。また、持続的なまちづくりの手法やプロセスのあり方を考究するため、明確なビジョンに基づき、部局間の連携により持続的な政策に取り組む自治体や、地域において継続的に活動を実践されている方々との連携、行政と民間のパートナーシップによるプロジェクト等を基盤とした研究活動を重視しています。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

和歌山市駅前の商店街・自治会および和歌山市都市再生課と連携し、駅前通りや水辺などの公共空間を、市民や来訪者のための「緑と憩いの広場」として活用する社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」を実践しています。



和歌山市駅前通りでの社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」の様子

研究者からのメッセージ

地域の歴史的・社会的文脈を踏まえたまちづくりの最適解は、外からの視点を取り込みつつ、地域の内側から導き出すしかありません。地域の人々との対話と実践を通じて、目指すべき方向を追求します。

研究分野 : 都市デザイン, まちづくり, 歴史的環境保全

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・准教授・永瀬節治

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp